

高性能ボイラの生産拡大を進める三浦工業

三浦工業株式会社は、愛媛県松山市に本社を置くボイラ、水処理装置、食品機械を中心とした設備メーカーである。貫流式ボイラのシェアでは日本国内トップを誇り、その他の食品加工機器などでも高いシェアを有している。台湾では、重油ボイラが主流の中、環境性能の面で優れたガス式ボイラの販売を進め、今年は台南の新工場の稼働開始により、生産力の拡大を目指している。今回は、三浦工業の台湾現地法人である三浦鍋爐股份有限公司の黒田節雄董事長を訪ね、現在の事業内容と新工場設立の狙い、そして今後の事業展開についてお話を伺った。



三浦鍋爐股份有限公司 黒田節雄董事長

—台湾進出の経緯について

当社は、1981年に代表者事務所を設立し、台湾市場へ本格的に参入しました。その後、オイルショックをきっかけに、ガス式ボイラは日本だけでなく海外でもニーズがあると考え、1988年に現地法人及び工場を設立し、ボイラを生産を開始しました。生産拠点を設けた理由は、コストダウンだけでなく、台湾と日本で圧力容器の規格が異なるため、台湾にて台湾の規格に合わせた生産を行う必要があったこと、また、ボイラに使われる薬品は液体で、日本から輸入しているのではコスト的に合わず、国ごとに水質が異なるため、各国の水質に合った薬品を製造する必要があったからでした。台湾は、北部と南部で水質が異なるため、台湾内だけでも数種類の薬品を製造する必要があります。当時は、韓国にのみ海外生産拠点を設けていましたが、将来的な中国市場への展開の足掛かりとして、台湾に拠点を設ける決断をしました。その後、2004年には中国蘇州に工場を設立しましたが、その際には台湾拠点の立ち上げメンバーが一部サポートをした経緯があります。

—台湾拠点の事業内容について

台湾では、貫流ボイラ及びボイラ薬品の生産販売、食品機械、水処理設備、軟水装置などの販売を行っております。台湾には、4ヶ所の営業拠点と工場があり、生産、販売、アフターサービス、調達の機能を有しています。ボイラについて、ミドルエンドの製品は一部日本からキーコンポーネント（コントローラやバルブ）を輸入して台湾で組み立てを行っており、ハイエンド製品は日本から完成品を輸入しています。台湾には高い金属加工技術を持つ優秀な部品サプライヤが多いことから、金額ベースで6割ほどの部品は台湾内で調達できています。

台湾拠点で生産される製品は、基本的には台湾市場向けですが、今後は製品規格が台湾と同じであるフィリピンへの輸出を検討していく予定です。ボイラの主な納入先は、食品、化学、液晶、半導体、電子部品などメーカーの工場から、クリーニング店、食堂、ホテルまで幅広く広がっております。また、ボイラ以外にも、食品メーカー向けの真空冷却機を販売しています。セブンイレブンやファミリーマート向けの食品バンダー工場や機内食を製造する企業などに納めています。

—台湾市場の状況について

台湾市場は、日本市場と同様に煤塵規制があり、製造業大手を中心にガスボイラへの切り替えも進んでいますが、依然として重油ボイラが主流です。例として、台北市内にある高級ホテルでも、重油ボイラを利用しています。政府関連の企業でもガスボイラへの入れ替えには保守的です。

台湾でガスボイラへの切り替えが進まない理由は主に2点あります。一点目は、ガス管の未整備エリアが多いことです。台湾のガス会社は中小企業が多く、それらの企業はガス管を自社で投資して整備することは難しいのが現状です。一般的にはガス管を1メートル整備するためには、1万台湾元程の費用がかかるため、1キロメートル整備するためには1,000万円かかる計算になり、中堅企業には高いハードルになっています。

二点目は、環境対応製品への補助金の欠如です。台湾では省エネや環境性能が優秀なボイラの導入に関して補助金を出していないため、環境性能だけを売りにしては企業への導入は難しくなっています。ただし、環境規制を厳しくする世界のトレンドは台湾でも変わらないため、ボイラのガス化は今後も進んでいくと考えています。裏を返せば、台湾にはガスボイラの市場

日本企業から見た台湾

拡大余地が多く残っていると云えるでしょう。

—貴社の強みについて

台湾にはボイラメーカーが20社程存在しており、価格競争が激しい市場です。そこで、当社では様々な製品機能や提案力で地場企業との差異化を図っています。

弊社製品の主な強みは、「省エネ・省力・環境負荷低減」、「低い故障率」です。当社は、台湾で広く利用されている重油ボイラだけではなく、ガスボイラを中心に販売しています。重油からガスに変えることで、CO2排出量を20-30%削減可能です。また、当社独自の「MI (Multiple Installation) システム」を採用しており、複数台のボイラを設置し、設備側の蒸気使用量に応じてボイラの稼働台数を自動的に調節し、効率よくボイラを稼働させることができるため、省エネ、省力、環境負荷低減に大きな効果を発揮します。台湾の工場では、1台の大きなボイラを設置しているケースが多く、営業の際に診断すると、実際には稼働率50%以下で運転しているケースがほとんどで、運転効率も悪くなっています。そこで当社では、今使用されているボイラの診断・稼働検査からコンサルティングを行い、提案につなげています。

次に、製品に組み込まれているモニターにより、ボイラの稼働状況を本社ホストコンピュータで一括処理ができます。予防保全や傾向管理を実施し、管理コストの削減、エネルギーコストの削減を可能にしています。ボイラの稼働状況や故障箇所などは、当社のオフィスからも把握できるようになっており、トラブルが発生したお客様へ訪問前に的確な対応をとることが可能です。このモニターの導入により、サービスエンジニアへの緊急故障の呼び出しを、90%以上減らすことができ、顧客の満足度にもつながっています。

また最近では、上述した強みのほかに、ボイラの安全性についても評価を頂いています。特に、食品関連の企業に納入するボイラに関しては、近年の台湾で話題になっている汚染油の問題から非常に厳しい安全基準を求められており、蒸気中に含まれる薬品の濃度・成分などは厳しく検査されます。台南の工場には、缶水の水質の分析をする機能を備え、それら顧客の基準をクリアすることで信頼を得ています。

—新工場設立の狙いについて

当社は昨年、新工場の設立を決定し、台湾經濟部（経済産業省に相当）と投資意向書（LOI）の締結を行いました。新工

場は、2015年の3月に竣工し、生産を開始する予定です。主に、ボイラ及び薬品の生産量の拡大が目的ですが、既存工場より付加価値の高い製品の生産や重要部品の内製化にも取り組んでいく予定です。工場の設備は、台湾製を一部活用し始めています。特に薬品の製造ラインでは、台湾製の生産設備が多く用いられています。台湾内で、品質の高い生産設備が調達でき、コスト削減につながる点も、台湾で生産拠点の拡大に踏み切った要因のひとつです。

—今後の事業展開について

今後日本では、ボイラ市場は徐々に縮小していくと考えています。そのため、当社はボイラ以外の製品ラインアップの拡大や海外展開について積極的に取り組んでいます。今後も更に海外売上比率を上げるためにも、既存の事業モデルの展開だけでなく、現在取り扱っている新規事業についても、海外展開を進めていきたいと考えています。台湾では、コンプレッサーや医療機器について、販売を検討しています。

当社のミッションは、三浦の技術力で、環境にやさしい社会づくりに貢献し、資源の有効活用でお客様から信頼される会社、社員になることです。当社創業者である三浦保が、高性能のボイラにより東京から富士山が見えるきれいな空にすることを夢見たように、この地でも台湾の空をきれいにすることに貢献できたらと考えています。

—ありがとうございました。

三浦鍋爐(股)有限公司の基本データ

会社名	三浦鍋爐股份有限公司
董事長	黒田節雄
設立	1988年2月
資本金	3億4000万元
従業員	約70名(内、日本人3名)
事業内容	ボイラ及びボイラ薬品の製造販売、水処理設備、軟水装置、真空冷凍機などの販売

注)2015年2月時点のデータによる
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理